教育実践学研究 第9号 2005.3

進路を適切に選択する力を伸ばすスキルトレーニングに関する学校心理学的研究
ー 中学校３学年「進路指導」における進路計画作成場面での ワークシートの活用を通してー

山口豊一　　長峰正道
（跡見学園女子大学）　（波崎町立波崎第四中学校）

概要

本研究では、中学校第３学年 31 名に対して、学級活動「進路指導」において、学校心理学における進路面の援助として、進路選択スキルを身に付けるためのスキルトレーニング（授業）を実施した。その際、進路計画作成場面で、進路計画を表記するためのワークシートを活用した。

その結果、スキルトレーニングは進路選択スキルを高めるのに効果があることが確認された。特に、「自分のつきたい職業に就くために、どうしたらよいのか調べることができる。」や「自分が将来何をしたいのか考えることができる。」，「進路を考えるとき、いくつかの選択肢をもつことができる。」などの進路選択スキルを高めるのに効果的であることが明らかになった。またスキルトレーニングの際、ワークシートを活用することで、意見や考えをまとめることを苦手としている生徒も活動しやすくなることが確認された。
KEY WORDS：スキルトレーニング、進路指導、進路選択スキル、ワークシート、進路計画

1　研究の視点

学校心理学では，学校教育は，児童生徒が「個人として生きる力」や変動しつつある「社会で生きる力」を育てるというヒューマン・サービスを行っているという視点に立ち，３段階の心理教育的援助サービスという考え方を提唱し，援助サービスの充実化を目指している（石隈，1999）。現在の教育現場が抱えている問題と向かい合うとき，問題が発生してからの一部の児童生徒を対象とした援助サービスと同様に，問題が発生する前のすべての児童生徒を対象とした援助サービスの充実は必須のものである。すなわち，子どもの学習面，心理・社会面・および進路面，健康面に焦点を当てながら，主として子どもの発達課題と教育課題への取り組みを援助するのである。

具体的には，学校生活を送る上で出会うことが予測される，発達しつつある個人としてとして出会う課題である発達課題と，学校というコミュニティの中で生活する者として出会う課題である教育課題に対処する際に役立つスキルに焦点を当てる。本研究は，進路面のスキルを身に付けるさせることを目指したいと考えた。

本学級は男子14人，女子17人，計31人在籍の学級である。部活動や学校行事，授業などに対して熱心に取り組むことができる生徒が多い。卒業後の進路に関しては，４月からの二者面談や三者面談を通して保護者，生徒と話し合った。その中で，「高校には進学したいが，その後の進路については定まっていない。」，「高校に入ってから将来就きたい職業を決める。」という生徒の意見が多く上がっていた。実態調査では，31人全員が進学を希望しているが，「なぜその学校に進学したいのか。」という質問に対して明確に回答することができた生徒が５人だった。また，「将来の職業について」問われ

ている質問に対して「就きたい職業が決まっていない」と答えた生徒が17人という結果であった。これまでの面談での生徒の発言や実態調査などから，本学級の生徒は，目標達成のために，卒業後の進路を適切に選択する力が身に付いていないと考えられる。

そこで，進路面の一つの課題である中学校卒業後の進路を適切に選択する力を伸ばすために，将来の生活を考えたり，それに向けてどのような進路があるのか調べたりすることのできるスキルトレーニングについて研究を進めたいと考えた。

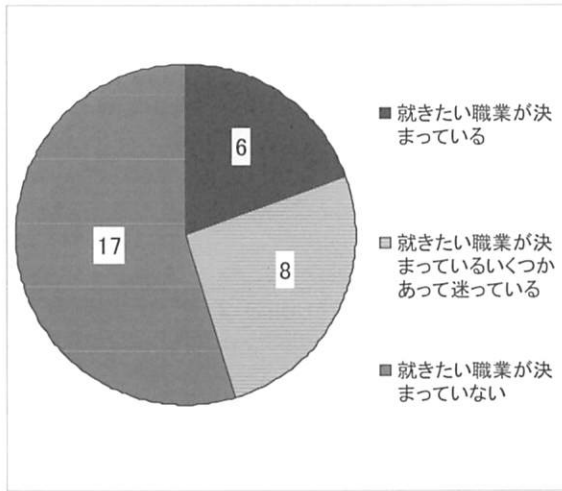

図１　将来の職業について

（平成16.4.3日実施　中学校３学年31人）

2　研究のねらい

中学校第３学年「進路指導」における進路計画の作成場面でのワークシートの活用を通して，自分の将来の夢や目標を実現するために，中学校卒業後の進路を適切に選択する力を伸ばすスキルトレーニングの在り方について究明する。

3　研究の内容

(1)　基本的な考え方

①　卒業後の進路を適切に選択する力

飯田・石隈(2002)は，学校心理学の援助領域である学習面，心理・社会面，進路面，健康面という枠組みを用いて，中学生が学校生活を送る上で出会う発達課題・教育課題の解決を促進するスキルを学校生活スキルとし，それを自己学習スキル，進路決定スキル，集団活動スキル，健康維持スキル，コミュニケーションスキルに分類している。そして，学校生活スキルを表１のように定義している。

表１　学校生活スキルの基本的な視点

①　学習される。
②　学習面，心理・社会面，進路面，健康面の領域で，小学生，中学生，高校生が抱える発達課題・教育課題の解決を促進する。
③　学校適応において個人の目標達成に有効である。
④　学校という場面で受容される。
⑤　学校で教育できる。

本研究はその中の「自分の就きたい職業に就くために，どうしたらよいか調べることができる。」，「進路を考えるときいくつかの選択肢をもつことができる。」等，進路決定に必要な意志決定スキルや問題解決スキルに関連した進路面でのスキル，進路決定スキルに焦点を当てている。本研究におけるスキルは，本人に認知されたスキルであり，学校生活スキル尺度（茨城県教育研修ｾﾝﾀｰ版　2003）を用い，

その得点が高い者はスキルが高いということにする。進路決定スキル尺度項目は，表２のようになっている。

卒業後の進路を適切に選択する力は，尺度項目１の「自分の就きたい職業に就くために，どうしたらよいのか調べることができる。」，項目７の「自分が将来何をしたいか考えることができる。」を主なものとして焦点を当てている。

② ワークシートについて

これまでも面談やアンケート調査の中で，中学校卒業後の進路について問う機会があったが，進路というものを漠然としたものと捉える生徒が多く，深まりがなかったように感じる。また，将来，就きたい職業や目標が決まっていないなど中学校卒業後の見通しが立っていない生徒が多いという実態があった。このことから，将来の目標を持ち，それに向けてどのような進路を選択すればよいのか見通しを持つことのできるワークシート（資料）を活用しようと考えた。

大部分の生徒が経験するであろうと予測できる，高等学校入学や就職等の項目をいくつか提示

しておき，それを卒業後から10年刻みの表に記入していくようなワークシートを作成した。この方式であれば，これまでは進路について深く考えることがなかった生徒でも順に進路計画を作成できると考えられる。

また，中学校卒業から順に記入するか，目標を定めてからどのような進路があるか考えながら記入するか生徒一人一人の実態に応じて活用することができると考えた。

表２ 進路スキルの尺度項目

1	自分のつきたい職業に就くために，どうしたらよいのか調べることができる
2	職業についている人の，生活や考え方，必要な技能などについて調べることができる
3	進路についていくつかの情報を詳しく比べたり，検討したりすることができる
4	仕事に関する情報の集め方を知っている
5	噂やイメージのみでなく，事実に基づいた情報を集めることができる
6	自分に向いている職業について考えることができる
7	自分が将来何をしたいのか考えることができる
8	進路を選択するとき，何が自分にとって大事なのかを考えることができる
9	進路を考えるとき，いくつかの選択肢をもつことができる
10	将来役に立ちそうな，のばすべき自分の才能が何であるか考える
11	自分の適性･能力を知っている
12	学んだこと・体験したことが現在や将来の生活にどのように結びついているか考えることができる

(2) 授業研究

① 単元名

学級活動「進路指導」

② 目標

将来の夢や目標を実現するために，中学校卒業後はどのような進路を選択すればよいのか考えることができる。

主な尺度項目 ・自分の就きたい職業に就くために，どうしたらよいのか調べることができる。（進路スキル尺度項目１）

・自分が将来何をしたいか考えることができる。（進路スキル尺

度項目７）

③　指導計画

トレーナー：学級担任

・短学活　　アンケート調査（スキル尺度による調査）「進路スキル」

・学級活動　　進路決定スキルトレーニング「進路計画の作成」

・短学活　　アンケート調査（スキル尺度による調査）「進路スキル」

④　配慮を必要とする生徒

・Ａ男…学習意欲が低く，学力も低い。家庭学習の習慣がない。三者面談では，「とりあえず，高校に入学できればいい。」と答えている。将来，就きたい職業は決まっていない。

・Ｂ子…学習意欲はある。普通高校に進学したいという希望はあるが，その後の目標ややってみたいことなどについては定まっていない。

⑤　展開

	トレーニングの内容・活動	トレーナーの働きかけ及び配慮事項
導入	1　本時のねらいを知る。	・今回のスキルトレーニングのねらいを説明する。 ・卒業後の進路について考えることは大切であることを伝え，進路学習についての意欲を高める。
	2　ウォーミングアップを行う。 「旅行に行くとき，先に決めるのは目的地か？交通手段か？」	・発表に対して，肯定的なフィードバックをする。 ・将来の目標を決めてから，それに達するまでの道を考えることの必要性を伝える。
展開	3　ブレインストーミングを行う。 ・班を作り，設定に対して班内で自由に発言し，記録する。それを班長が発表する。	・「進路決定の優先順位（高校入学が先か？将来の生き方を考えるのが先か？）」について自由に発言し，記録用紙に書き込むように指示する。 ・目先のことだけにとらわれず，将来のことも十分に考え，それに向けて進路選択することが大事であることを伝える。
	4　本時の目標について確認し，ワークシートに卒業後の進路計画を立てる。 ・班を解き，前を向く。	・本時の目標を板書し，ワークシートの記入方法を説明する。 ・進路計画を立てることが難しい状況の生徒には，事前に調べておいた卒業生の進路を提示する。 ・目標を達成するまでの進路を考えられないことも予想できるので，進路学習に関する資料を用意しておく。

	5 グループ・ディスカッションを行う。 ・班ごとになり，班長が司会をする	・互いの発表内容について，質問をしたり自分の意見をアドバイスしたりするのは構わないが，書いた内容を否定しないことを確認する。 ・自分の進路計画を班の中で発表し，そのような計画を立てた理由も説明するように促す。
まとめ	6 振り返り ・フィードバック表に記入する。	・トレーニングの感想を記入するように指示する。 ・いくつかの進路計画を発表し，そのよさを全体に伝える。
	7 まとめ	・卒業後の進路を適切に選択することは非常に重要であり，将来の目標を達成するにはどのようにすればよいのか考えることで進路計画を立てることができるようになることを伝える。

⑥ 活動の内容

「進路決定をするときの優先順位（高校入学が先か？将来の生き方を考えるのが先か？）」のブレインストーミングでは，高校入学試験を強く意識し始める時期でもあることから，高校入学を優先させる生徒がいたが，意見を出し合っているうちに将来のことを考えることが大切だと意見を変える生徒もいた。

表3 トレーニングを終えての感想

- 将来の目標はあったけど，高校でやりたいことまでみつかった。だから，勉強を頑張ろうと思う。
- 目の前のことだけでなく，将来のことを見ることも大事なんだなぁと思った。
- あらためて自分の人生を考えました。夢を実現するためにどうすればいいか分かりました。
- 今のことだけでなく，将来のこともしっかり考えていかないとダメだということが分かった。
- 今回は，自分の将来について楽しく考えることができた。みんなの考えも聞けてよかった。
- 将来のこと考えるのは楽しかった。ここに書いたことが全部本当になって，充実した日々になるといいなと思った。

「進路計画」を作成するとき，始めの説明だけで一人で書き進めることができる生徒と，教師から個別の支援を受けながら書き進めていく生徒とに分かれた。しかし，支援を受けながらの生徒のほとんどは，卒業生の進路をいくつか提示しただけで「進路計画」を書き進めていくことができた。また，提示してある項目だけでなく自分から必要だと思う項目を作り，表に書き込む生徒も多く見られた。

配慮を必要とする生徒A男は，支援を受けながら，進路計画を最後まで立てることができた。さらに，班の中での発表を通して，班員のアドバイスを受け入れ作成した進路計画を改善した。また，支援を受けることなく，B子は退職するまでの進路計画を立てることができた。

⑦ 授業後の働きかけ

卒業後の進路について，生徒本人が考えるだけでなく，進路相談を通して将来就きたい職業やどのような分野に興味があるかなどを話し合いながら，共に考えるようにした。また，進学希望者については，希望する高等学校ではどのような学習や活動をしたいのか具体的に話し合うようにした。

(4) 分析と考察

① ワークシートを活用したことでの効果について

ほとんどの生徒が，教師の支援を受けることなく一人で進路計画を作成することができた。これは卒業後の進路を10年ごとに考えることができるようになっていたために，書きやすい年代から始められるという安心感があったためではないかと考えられる。

また，具体的な項目を当てはめていくことで大まかな進路計画を作成することができるので，ある程度見通しを持つことができたためだと考えられる。さらに，詳細に計画を立てる際には新たな項目を作ることができるので，生徒一人一人に合わせた記入方法となったと考えることができる。

② 学級全体の生徒の変容

ア 行動面から

進路相談や三者面談の中で，「なぜその学校に進学したいのか。」と問うと，「将来，こういうことをしたいから。」「将来，就きたい職業に必要な資格をとるため」など具体的に答えられる生徒が増えるなど，単に進学すればいいという意識から，将来の進路まで見据えていると考えている発言が多く聞かれるようになった。また，日常生活の会話や日記の中で，希望している中学校卒業後の進路が，将来，就きたい職業に繋がっているか考えていると捉えることのできる発言

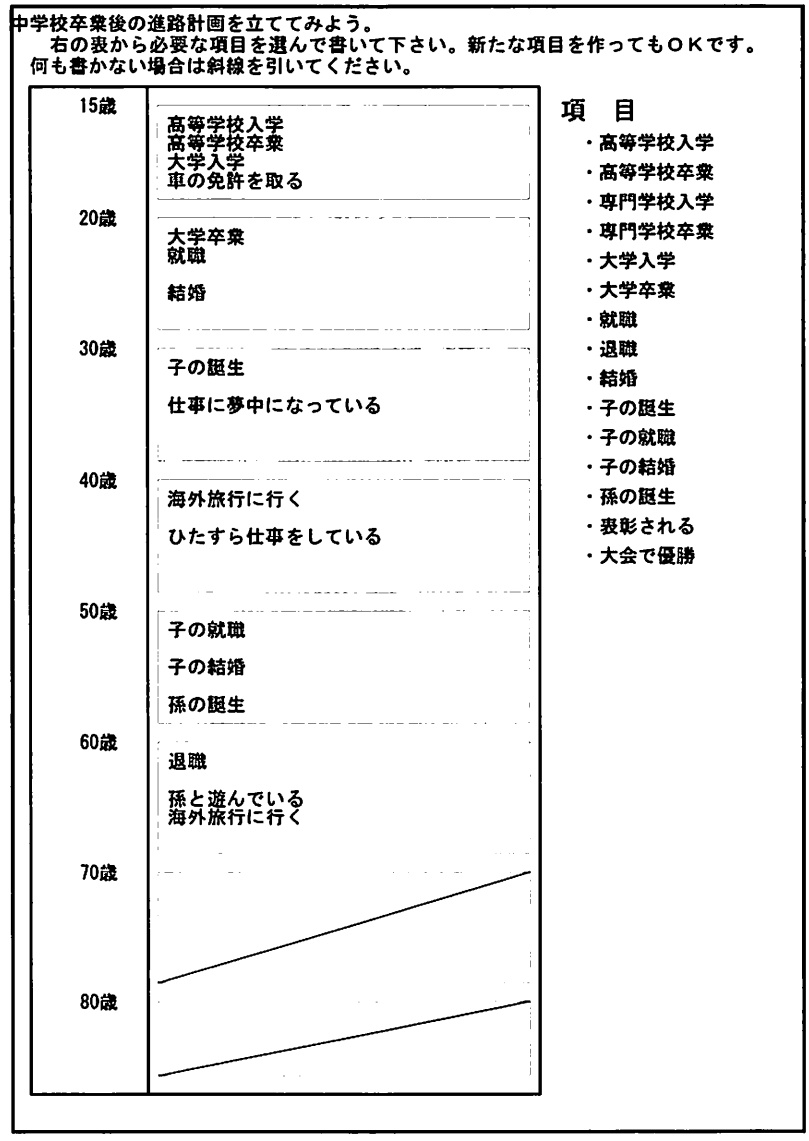

図２　生徒の立てた進路計画（例）

が増えてきた。

配慮を要する生徒A男は，将来，就きたい職業については決まっていないが，進学してどのような活動をしたいか面談の中で話をするようになった。また，B子は日記の中に，将来は警察官になりたいと希望を記入し，それに就くまでの進路を担任と相談することができた。

イ　プレ・ポストテストの調査とアンケートから

トレーニング実施後の学級全体の自己評価は，どの項目も上昇しており，トレーニングの効果があったとみることができる。特に，項目1，項目7，項目9が大きく上がっている。項目1については，ワークシートに中学校卒業後から将来のことまで順に記入されているので，それを見て，どのような進路を進めばよいのか判断できたのだと考えられる。項目7については，トレーニングをきっかけとして，その後の生活の中で将来について真剣に考えるようになったためだと考えられる。項目9については，面談の中で，「○○になるためには，いくつかの方法があることが分かった。」，「自分に合っている職業にはいくつかあると思う。」と発言している。つまり，将来の目標を決めることで，それを達成するための方法をいくつか見つけたり，自分の適性から進路を選択しようとしたりることができたのではないかと考えられる。配慮を必要とする生徒A男は，項目4～7，11の5項目が2点から3点に上昇している。これは支援やアドバイスを受け入れながらトレーニングを実施したことが要因だと考えられる。またB子も項目1，3～4，7，9の5項目が2点から3点に上昇している。目標の尺度項目であった項目1，7が上昇していることから，B子についても本トレーニングの効果があったと考えられる。

表4　進路決定スキル得点平均の事前・事後の比較

（事前：平成16年9月16日実施，事後：平成16年9月27日実施　中学校第3学年　31人）

	進路決定スキル	事前	事後
1	自分のつきたい職業に就くために，どうしたらよいのか調べることができる	2.66	2.97
2	職業についている人の，生活や考え方，必要な技能などについて調べることができる	2.53	2.75
3	進路についていくつかの情報を詳しく比べたり，検討したりすることができる	2.56	2.78
4	仕事に関する情報の集め方を知っている	2.56	2.81
5	噂やイメージのみでなく，事実に基づいた情報を集めることができる	2.50	2.72
6	自分に向いている職業について考えることができる	2.72	2.97
7	自分が将来何をしたいのか考えることができる	2.69	2.97
8	進路を選択するとき，何が自分にとって大事なのかを考えることができる	2.59	2.84
9	進路を考えるとき，いくつかの選択肢をもつことができる	2.41	2.75
10	将来役に立ちそうな，のばすべき自分の才能が何であるか考える	2.50	2.56
11	自分の適性･能力を知っている	2.56	2.81
12	学んだこと・体験したことが現在や将来の生活にどのように結びついているか考えることができる	2.53	2.78
	合計	31.13	33.84

トレーニング実施後のアンケート調査によると，実施前に比べて（図1），就きたい職業が決まっていないという生徒が減り，何らかの目標を持ち始めた生徒が増えていることが分かる。さらに就きたい職業が決まっていると答えた生徒も僅かではあるが増えている。前回の調査では就きたい職業が決まっていないと答

えていた生徒の１人がそのよう答えている。就きたい職業は決まっていないが，進学後に何をしたいのか具体的に挙げる生徒も見られた。

Ａ男はその１人であり，Ｂ子は就きたい職業を具体的に挙げていた生徒の１人であった。将来の職業について決められない生徒の中には，今回のトレーニング後に自分の適性や興味・関心などを振り返られるようになり，自分に合っているか考えていると窺える。

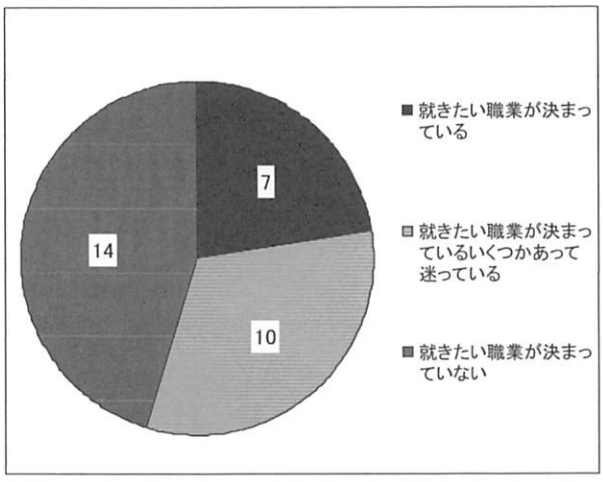

図３　将来の職業について

（平成16.10.13実施　中学校３学年31人）

4　研究のまとめ

今回の研究で，中学校３学年「進路指導」において，進路計画を表記するワークシートを作成した。そして，そのワークシートを活用し，将来の夢や目標を実現するために中学校卒業後の進路を適切に選択する力を伸ばすスキルトレーニングの在り方について研究してきた結果，次のようなことが明らかになった。

(1)　進路面のスキルトレーニングは、進路選択スキルを高めるのに効果的である。

(2)　スキルトレーニングはこれまで「自分にはできない。」，「やろうと思わない。」といった消極的な姿勢の生徒に，行動してみようという意欲を高めさせるために有効である。

(3)　グループでブレインストーミングなどを活用して，スキルトレーニングを実施する前に，日頃から生徒同士が思ったことや感じたことを言え，また互いの意見を認め合える学級作りが必要である。

(4)　ワークシートを活用することで，意見や考えまとめることを苦手としている生徒も取り組むことができるようになる。

(5)　進路計画を立てる際に，生徒から理由や具体的な方法を説明してもらうことを考えると，スキルトレーニングだけを実施するのではなく，進路相談も合わせて実施すると，より効果がある。

(6)　学校生活の色々な場面を，さらなるスキルトレーニングとして活用することで，継続的に生徒にスキルトレーニングを実施させていくことができる。

5　今後の課題

(1)　「進路選択スキル」を１時間の授業だけで，完全に身に付けることは大変難しいと思われるため，年間を通して継続的・計画的なスキルトレーニングが必要となる。そのための指導計画を作成したい。

(2)　中学校３年生だけで実施するのではなく，１年生からスキルトレーニングを実施で

きるように学年毎のトレーニング方法を開発したい。

(3)　本スキルトレーニングを実施するとともに，二者面談・三者面談も含めて，適切な助言をするために進路相談を実施したい。

＜引用文献＞

茨城県教育研修ｾﾝﾀｰ　2003　『教育相談に関する研究　学校生活適応のための指導・援助の在り方』茨城県教育研修センター教育相談課報告書

飯田順子・石隈利紀　2002　「中学生の学校生活スキルに関する研究－学校生活尺度（中学生版）の開発」教育心理学研究50, 225－236

石隈利紀　1999　『学校心理学－教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』　誠信書房

＜論文＞

地域の特性を生かした新エネルギー教育カリキュラムの開発

茨城県行方郡玉造町立玉造中学校
教諭　板橋夏樹

研究の概要

現在のエネルギー問題を語る上で新エネルギーの重要性が叫ばれている。それは、地球環境をこれ以上悪化させることのないエネルギー資源を用い、持続可能な社会を目指すためである。よって、将来を担う生徒たちに新エネルギーを理解させることは重要なことである。現在の中学校でのこの問題の扱いは、各教科の関連が少なく、またトピック的に扱われていることが多い。そこで、本研究では、各教科でどのように扱われているかを明確にし、特に理科においてこの問題をどのように扱っていくべきか検討し、実践した。結論として、理科と選択理科（２、３年生）を対象に試行授業を行った結果、生徒の大部分はエネルギー問題を理解し、新エネルギーの重要性を理解できたと考えられる。しかしながら、教材開発に課題も残しており、今後の検討課題も明らかになった。

キーワード：理科、選択理科、新エネルギー、風力、太陽、バイオマス、

１．問題の所在

現在，エネルギー問題を語る上で新エネルギーの重要性が叫ばれている。このような社会をこれから生きていく子ども達に対し，義務教育段階でこの問題を扱うことは大切である。中学校段階では，理科では発電の原理を，社会科では環境や倫理面の問題を，技術家庭科では実際のエネルギーの取り扱い方について学習している。しかしながら，特に理科での扱いにおいては，カリキュラムの最後に位置づけられ，授業の中であまり重要視されていないのが現状である[1]。

本校周辺は，広大な霞ヶ浦を見渡せる高台に位置し，レンコン畑や田園に囲まれており，大変自然環境に恵まれている。この自然環境の豊かさ故に，生徒たちは現在問題となっているエネルギー問題をあまり実感することがない。そこで，本校では生徒がエネルギー問題に関心を持つことが出来るように，平成 16 年 1 月に校舎屋上に風力発電機を設置した。

これまでのエネルギーに関する研究は、エネルギー概念についてのものが多い。しかし、これからはエネルギー利用に関する実践的な授業のあり方を深く研究する必要があると考える。総合的な学習の時間としてではなく、理科の中でこの「利用」について具体的にどのように扱っていくべきかを考えることは、教科の意義を考慮しても重要な問題である。

従って、本研究では，エネルギー利用に関する意識を高めるカリキュラム、中でも特に新エネルギーを扱うカリキュラムのあり方を考えた。具体的には、さまざまな発電方法を実体験を通し学んでいく中で，地域の環境の特色を再認識し，その特徴を生かしたエネルギー利用を考える態度を生徒が身につけることができるような授業を開発した。